



2019年12月期 決算説明会

代表取締役 社長執行役員 富安 司郎

2020年2月17日



1. 2019年12月期業績の概要
2. 国内外市場の動向
3. 2020年12月期 業績予想
4. 中期経営計画の進捗について

1. 2019年12月期業績の概要



連結業績の概要

ISEKI

(単位: 億円、%)

	18/12期		19/12期		前期比	※ 予想比
	実績	比率	実績	比率		
売上高	1,560	100.0	1,499	100.0	△ 61	△ 56
(国内)	1,228	78.7	1,177	78.5	△ 51	△ 50
(海外)	332	21.3	322	21.5	△ 10	△ 6
営業利益	32	2.0	27	1.8	△ 5	△ 13
経常利益	26	1.7	11	0.7	△ 15	△ 15
親会社株主に帰属する 当期純利益	11	0.7	7	0.5	△ 4	△ 9
為替 レート (円)	米ドル	110.2	109.3		△0.9	+0.3
	ユーロ	130.9	121.6		△9.3	+0.6

※予想比: 2019年11月13日公表予想との対比

国内売上高

ISEKI

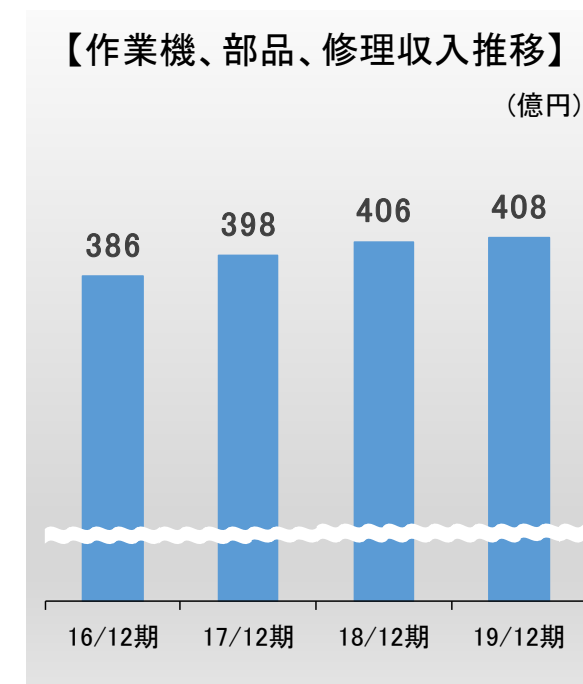
前期比
△51億円

補修部品、修理収入は堅調に推移したものの、消費増税の反動減による農機製品の減少に加え、前期に大型施設工事があった影響により減収

		18/12期 実績	19/12期 実績	前期比		
					備考	
農機 製品	整地機	274	254	△ 20	トラクタ: △17	
	栽培機	92	90	△ 2		
	収穫調製機	200	186	△ 14	コンバイン: △10	
	小計	566	530	△ 36		
	農機 関連	作業機	202	201	△ 1	
		部品	148	150	+ 2	
		修理収入	56	57	+ 1	
		小計	406	408	+ 2	
	計	972	938	△ 34		
	施設工事	57	46	△ 11		
その他農業関連	199	193	△ 6			
合計	1,228	1,177	△ 51			

(単位: 億円)

※予想比
△ 15
△ 6
△ 12
△ 33
△ 4
△ 2
△ 1
△ 7
△ 40
△ 3
△ 7
△ 50



※予想比: 2019年11月13日公表予想との対比

海外売上高

▶▶▶
前期比 △10億円

北米堅調に加え韓国向け出荷が増加するも、中国・アセアンの減少により全体では減収、欧州は為替影響を除けば増収

(単位: 億円)

	18/12期 実績	19/12期 実績	前期比		※ 予想比
			増減	備考	
北米	108	127	+ 19	新商品の小型トラクタ好調 トラクタ: +19	△ 3
欧州	109	102	△ 7	注)1	△ 5
中国	10	1	△ 9	田植機: △8	± 0
アセアン	39	17	△ 22	トラクタ: △22	± 0
その他	18	35	+ 17	韓国: +13(コンバイン: +11)	+ 1
製品計	284	282	△ 2		△ 7
部品その他	48	40	△ 8		+ 1
連結売上高合計	332	322	△ 10		△ 6

注)1 欧州為替影響

18/12期	19/12期	増減	内、為替
109	102	△7	△9

※予想比: 2019年11月13日公表予想との対比

営業利益

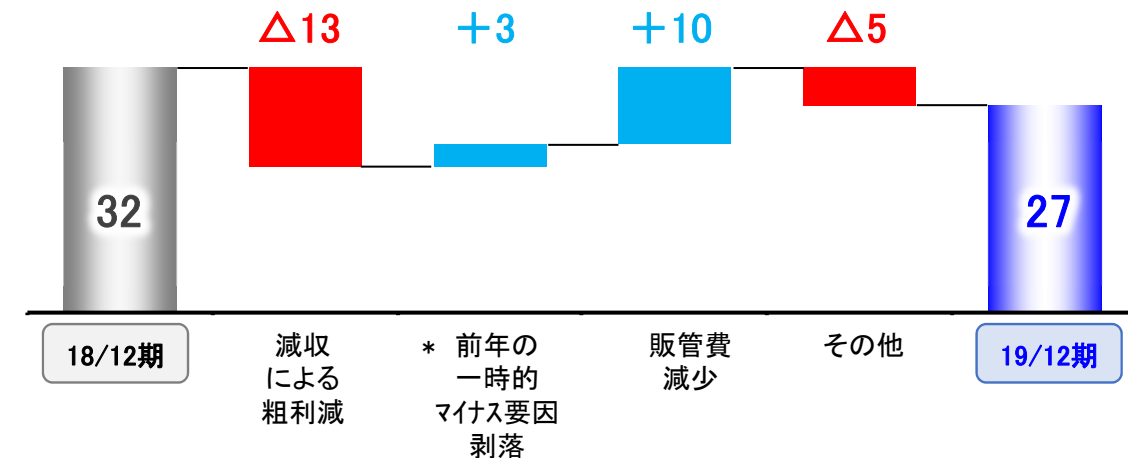
前期比
△5億円

減収による粗利益減少はあるも、国内販社収支構造改革や業務効率化による販管費の削減は継続

	18/12期 実績	19/12期 実績	前期比	※予想比
売上高	1,560	1,499	△61	△56
売上総利益	460	445	△15	△22
粗利率	29.5%	29.7%	+0.2%	△0.3%
販管費	428	418	△10	△9
人件費	254	247	△7	△4
その他経費	174	171	△3	△5
営業利益	32	27	△5	△13

※予想比:2019年11月13日公表予想との対比

【営業利益増減内訳(前期比)】



* 前年一時的要因: 子会社合併に伴う退職給付原則法適用の一時的負担の減 +2
施設不採算工事による採算悪化の減 +1

【為替影響(億円)】

売上	原価	販管費	営業利益
△13	△10	△2	△1

* 原価、販管費のマイナスは利益プラス表示

経常利益、当期純利益

ISEKI

経常利益
前期比
△15億円

持分法投資損失の増や、前期計上のあった受取技術料がなくなった影響により減益幅が拡大

(単位:億円)

	18/12期 実績	19/12期 実績	前期比	※予想比
営業利益	32	27	△5	△13
金融収支	△8	△8	±0	△1
その他営業外損益	2	△8	△10	△1
経常利益	26	11	△15	△15
特別利益	1	5	+4	+1
特別損失	△5	△3	+2	±0
税前利益	22	13	△9	△14
税、税調整額	△11	△6	+5	+5
親会社株主に帰属する 当期純利益	11	7	△4	△9

営業外損益増減内訳(前年同期比)

持分法投資損失	△4億円
前期にあった受取技術料の剥落	△5億円

・持分法投資損失 △4億円

(単位:億円)

18/12期 実績	19/12期 実績	増減
△11	△15	△4

※予想比:2019年11月13日公表予想との対比

バランスシート(連結)

ISEKI

前年
同期末比

10月以降の国内売上減により売上債権、仕入債務は減少

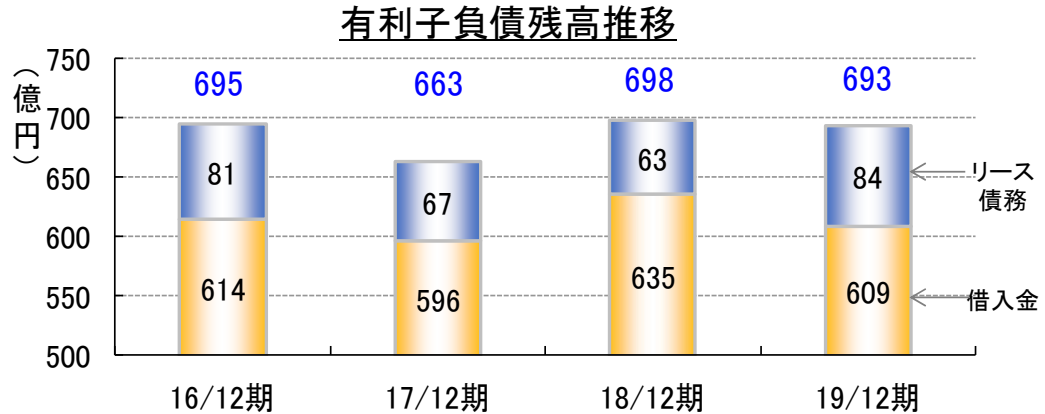
(単位:億円)	18/12月末	19/12月末	増減		18/12月末	19/12月末	増減
現金	75	84	+9	仕入債務	397	377	△20
売上債権	233	197	△36	有利子負債	698	693	△5
棚卸資産	537	542	+5	(内借入金)	(635)	(609)	(△26)
その他流動資産	73	49	△24	(内リース債務)	(63)	(84)	(+21)
(内短期貸付金)	(28)	(12)	(△16)	その他負債	227	212	△15
流動資産計	918	872	△46	負債計	1,322	1,282	△40
有形固定資産	968	983	+15	純資産	690	693	+3
(リース資産)	(60)	(80)	(+20)	(利益剰余金)	(169)	(170)	(+1)
無形固定資産	11	13	+2	(有価証券評価差額金)	(4)	(4)	(±0)
投資その他資産	115	107	△8	(為替換算調整勘定)	(8)	(6)	(△2)
(内投資有価証券、出資金)	(73)	(55)	(△18)				
固定資産計	1,094	1,103	+9	負債・純資産計	2,012	1,975	△37
資産合計	2,012	1,975	△37				

有利子負債と配当

有利子負債
配当

有利子負債は前期比微減
今期末配当は30円を予定

1. 有利子負債



D/Eレシオ(倍)	1.04	0.94	1.01	1.00
自己資本比率(%)	32.2%	34.4%	33.4%	34.2%
有利子負債(億円)	695	663	698	693
純資産(億円)	671	709	689	692

2. 配当

(単位:円)

	18/12期 実績	19/12期 予定
期末配当	30	30

キャッシュ・フロー計算書

ISEKI

キャッシュ・
フロー

営業活動によるキャッシュフローは黒字継続

(単位: 億円)

	18/12期 実績	19/12期 実績	前期比
営業活動によるキャッシュ・フロー	76	105	+29
投資活動によるキャッシュ・フロー	△99	△71	+28
フリーキャッシュフロー	△23	34	+57
財務活動によるキャッシュ・フロー	20	△24	△44
現金及び現金同等物に係る換算差額	△1	0	+1
現金及び現金同等物の増減額	△4	10	+14

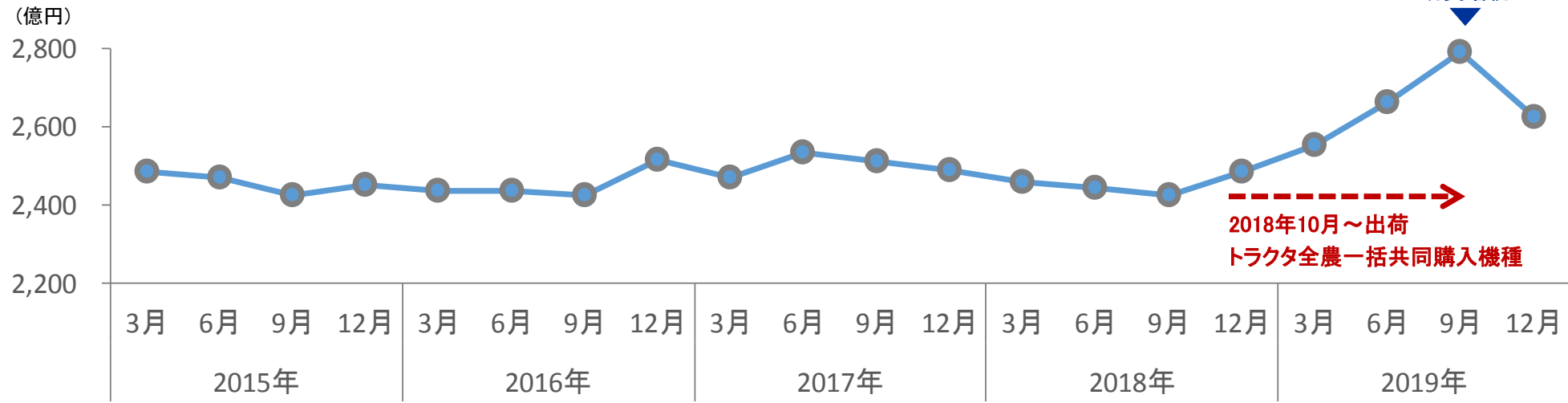
2. 国内外市場の動向



国内農機市場の動向

国内農機需要 ▶▶▶ 9月まではトラクタ(全農一括共同購入機種)の出荷や、消費増税前の駆け込み需要により堅調に推移も、10月以降消費増税の反動減

■ 農機需要〔業界出荷〕(主要9機種・移動年計)



※主要9機種:トラクター、コンバイン、田植機、耕耘機、乾燥機、籾摺機、バインダー、ハーベスター、トリートメント
 出所:日農工出荷統計より当社推計

国内農機出荷と当社実売状況

ISEKI

国内
農機需要

業界の伸長に対し当社実売は微減

主要9機種 前年伸長率(金額、移動年計) ※当社推計

(単位:%)

		2017/1月 ~12月	2018/1月 ~12月	2019/1月 ~12月
業 界	(出荷金額)	99%	100%	106%
当 社	(実売金額)	102%	99%	95%

※主要9機種:トラクター、コンバイン、田植機、耕耘機、乾燥機、籾摺機、バインダー、ハーベスター、トリートメント

国内
営業展開

創立95周年、田植機「さなえ」誕生50年キャンペーン、施策を展開

< 創立95周年 >



< 田植機「さなえ」誕生50年 >



国内 農政の動向

■農林水産予算案

2019年度補正＋2020年度予算

2兆8,958億円

■農機・農業施設に関する主な予算

区分	事業名	予算額
2020年当初	強い農業・担い手づくり総合支援交付金	230億円
2019年補正	担い手確保・経営強化支援事業	64億円
2019年補正	産地生産基盤パワーアップ事業	348億円
2019年補正	畜産・酪農収益力強化整備等特別対策事業 (畜産クラスター事業)	409億円
2020年当初	水田における園芸作物の導入支援	111億円
2020年当初	スマート農業加速化実証プロジェクト	8億円
2019年補正	スマート農業の開発・実証プロジェクト等	72億円
2020年当初	農地耕作条件改善事業(GNSS基地局設置等)	250億円

「スマート農業」の
社会実装を加速化

国内 スマート農業の取組み

ISEKI

農業経営の将来像(スマート農業)

※数値は農林水産省「農業新技術の現場実装推進プログラム」から抜粋

労働力の低減
(40～50%削減)

位置情報に基づく**自動化技術**

単収向上
(単収15%アップ)

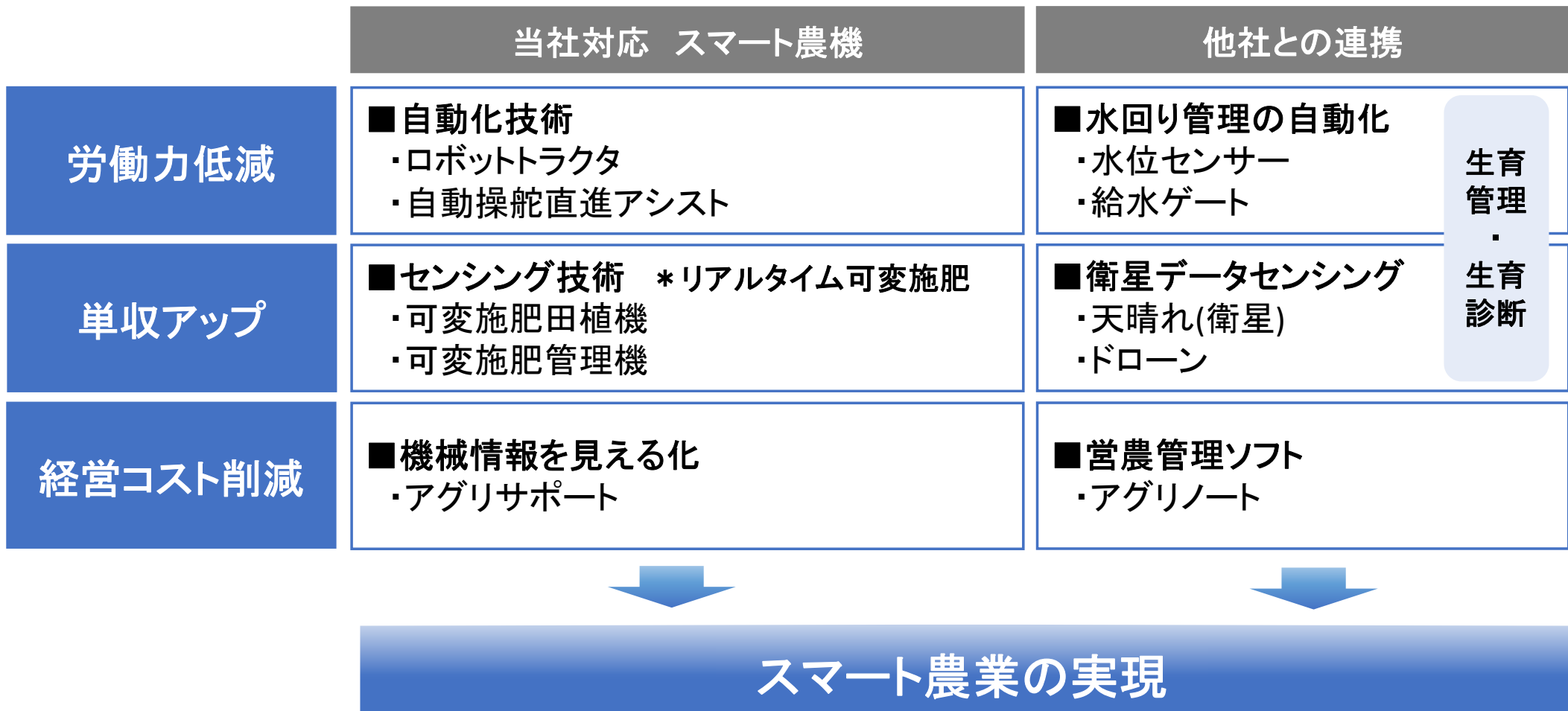
データを活用した
効率的+精密な管理技術

経営コストの見える化
(経営コスト20%削減)

営農管理ソフトを活用した、
経営の見える化

「経験」と「勘」の農業 ▶ 合理化された農業

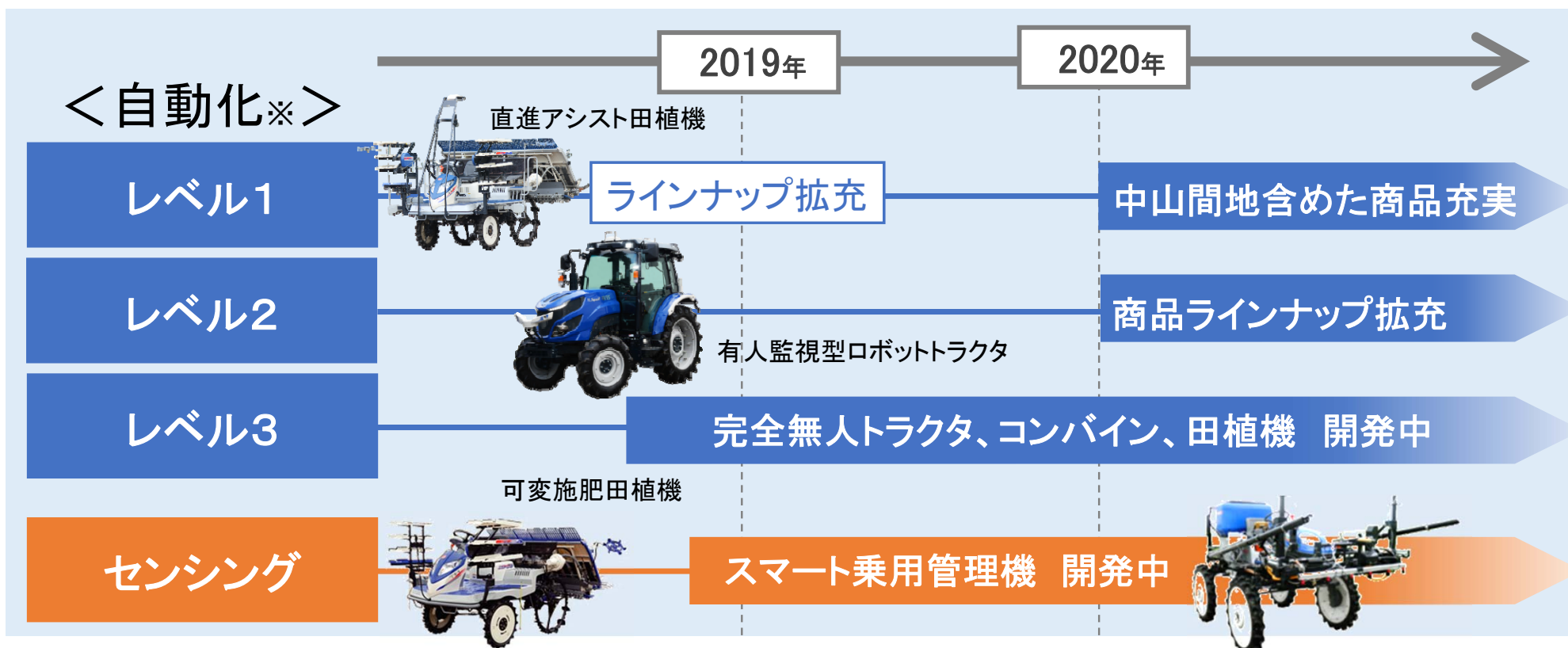
国内 スマート農業への当社取組み



生育管理
・
生育診断

国内 スマート農機開発の方向性

ISEKI



※自動化レベル

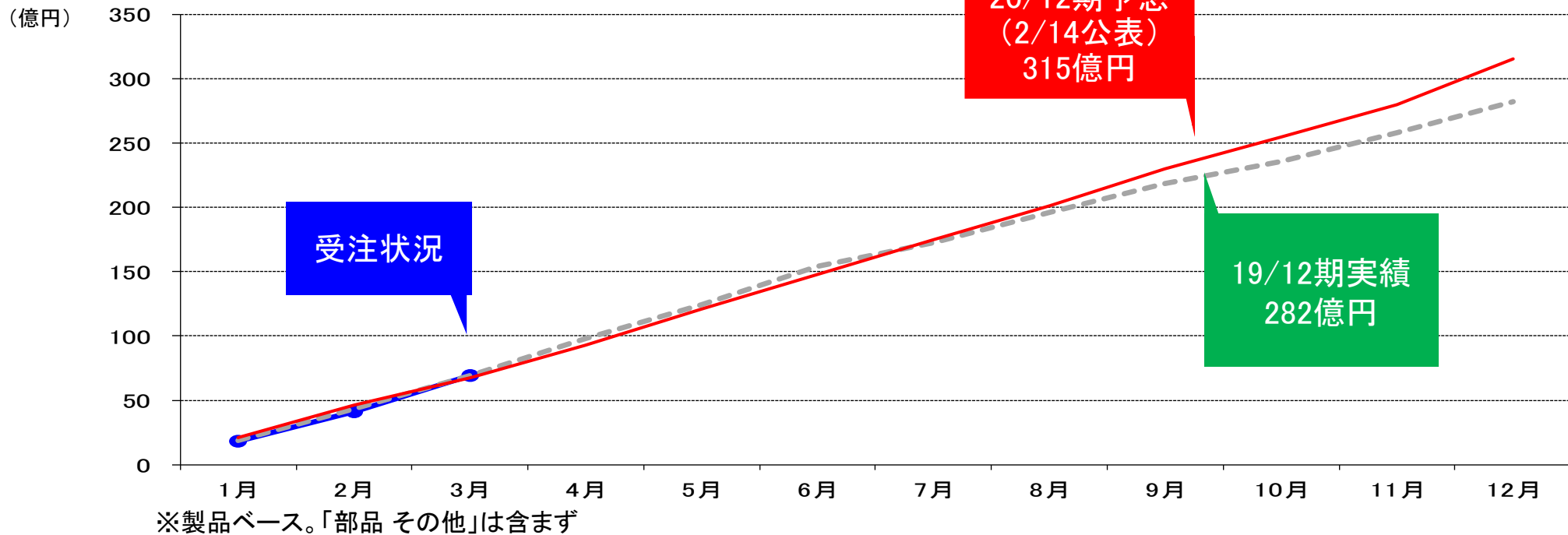
レベル1	有人乗用型 操舵アシスト 旋回アシスト
レベル2	有人監視型 無人運転 現状周り耕は有人
レベル3	遠隔監視型 ほ場間移動含めた完全無人が目標

海外製品売上の直近状況

ISEKI

海外
受注状況

3月までの受注は計画通りの進捗



海外市場の動向(北米)

北米

19/12期:コンパクトクラスの新商品が好調に推移
 20/12期:コンパクト市場は引続き堅調、AGCO社と連携を強め売上拡大図る

1. 市場の動向

(単位:千台、%)

区分(PTO馬力)	40HP以下 (コンパクト)	40~100HP (ユーティリティ)	100HP以上
2018年1-12月	170	66	22
2019年1-12月	178	72	22
増減率	105%	109%	100%

(出所:AEM統計)

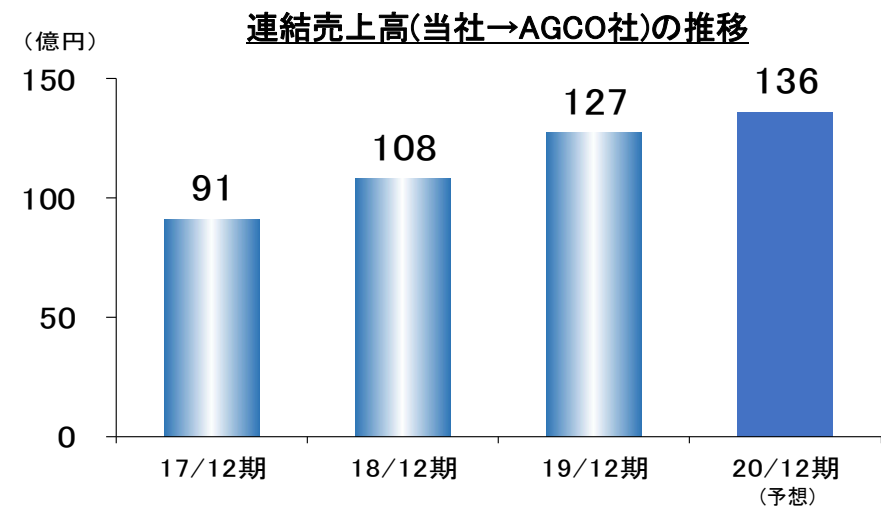
2. AGCO社(OEM先)の状況

実売台数(19/1-12月)

- コンパクト :前期比 110%
- ユーティリティ :前期比 96%

3. 当社の売上・受注状況

出荷・受注(20/1-3月) :前年同期比 120%



海外市場の動向(欧州)

欧州

19/12期:天候不順はあるも、現地通貨ベースでは前期比増収。円ベースでは減収
20/12期:為替円高影響あるも、新商品投入や代理店との連携深化で前期並み想定

1. 市場の動向

<景観整備市場>

(2019年)

- ・プレシーズンの販売は好調に推移
- ・4月低温、6月下旬は高温・乾燥と天候不順

2. 現地の実売状況

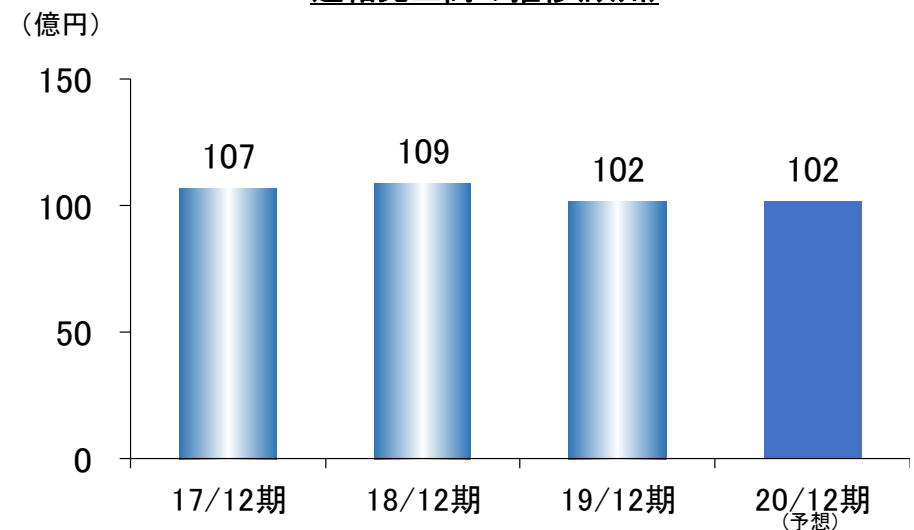
➤ 実売台数(19/1-11月)

・現地販売代理店	:前期比	100%
芝刈機	:前期比	95%
トラクタ	:前期比	105%

3. 当社の売上・受注状況

出荷・受注(20/1-3月) :前年同期比 95%

連結売上高の推移(欧州)



海外市場の動向(アセアン:タイ)

タイ

19/12期:干ばつや洪水の影響もあり農機市場は軟調
20/12期:IST販売サービス網の拡充、ブランド構築を強化し拡販を図る

1. 市場の動向

(2019年)

- ・農村の経済環境改善遅れ、かんばつや洪水の影響もあり農機市場は軟調

2. 現地販売会社[IST Farm Machinery]の状況

現地実売台数

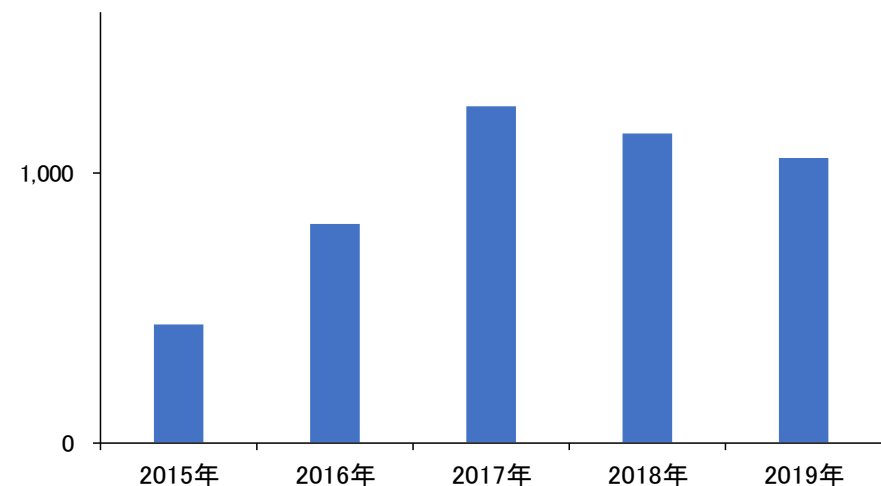
アセアン戦略トラクタ(19/1-12月): 前期比 84%

- ・IST社 支店開設⇒サービス体制強化

3. 当社の売上・受注状況

出荷・受注(20/1-3月): 昨年末より出荷再開

■IST社 実売状況(※タイ以外台数含む)



海外市場の動向（アセアン周辺諸国）

ISEKI

アセアン 周辺諸国

19/12期: インドネシア政府入札はボリューム減少。ミャンマーは順調に推移
20/12期: インドネシア政府入札に加え、引き続きミャンマーの伸長に期待

1. 市場の動向

(2019年)

<インドネシア>

- ・政府入札のボリューム減少

<ミャンマー>

- ・農業の機械化が進展（請負業者中心）

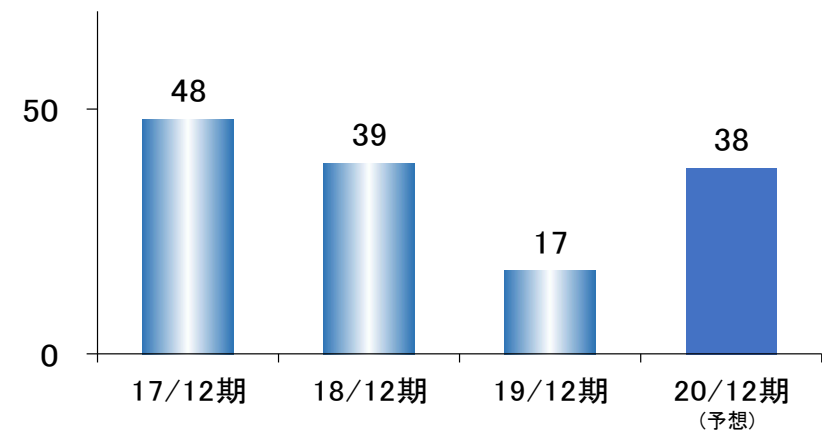
2. 当社の状況(2019年)

- インドネシア: 入札ボリューム減少で前期比減少
- ミャンマー: IST社を通じ販売拡大

3. ISEKIタイランドの取り組み

販売代理店の営業・サービス支援を強化
今後のマーケット拡大を想定し、ISEKIタイランドを
ベースとした補修部品供給体制を強化

(億円) 連結売上高の推移(アセアン全体)



PT.井関インドネシア(生産子会社)

ISEKI

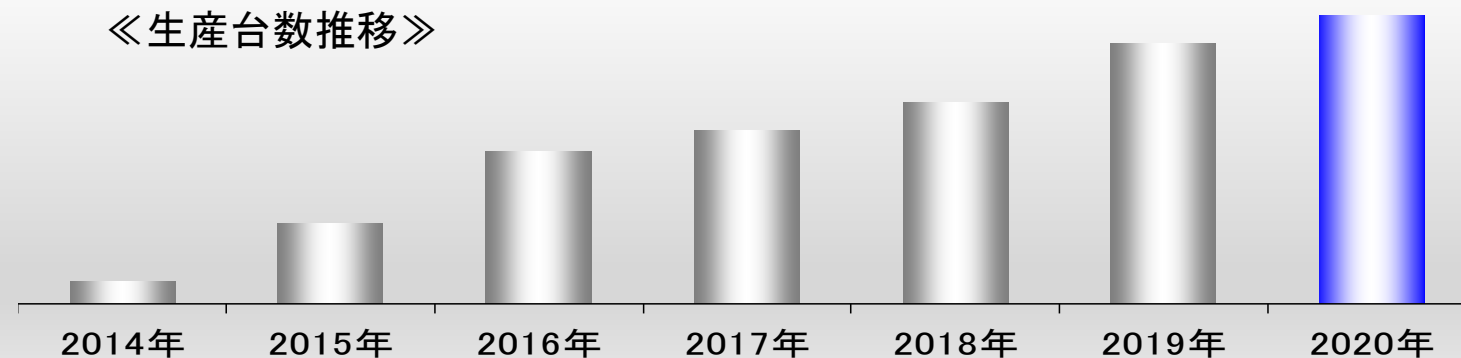
PT.井関
インドネシア

2019年は生産台数、利益ともにほぼ計画通り
海外で稼ぐためのベース基地として収益体質強化を一層図る

(単位:台、億円)

	2014年 実績	2015年 実績	2016年 実績	2017年 実績	2018年 実績	2019年		2020年 計画
						計画	実績	
生産台数	1,100	3,900	7,300	8,400	9,700	12,000	12,600	14,000
営業利益	△3	△4	△3	3	1	3	3	5

《生産台数推移》



海外市場の動向(中国)

中国

19/12期:市場冷え込みを受け主力の田植機が大幅減少
20/12期:補助金は前年並み、市場の動きに適応した施策を実施

1. 農機業界の動向 機種別 前年伸長率(台数、%)

(単位:%)

	2017/12月	2018/12月	2019/11月
田植機(乗用)	+6%	△20%	△11%
コンバイン(汎用、自脱)	△12%	△22%	△17%
トラクタ(大中型)	△25%	△21%	+7%

(出所)中国農業機械工業協会

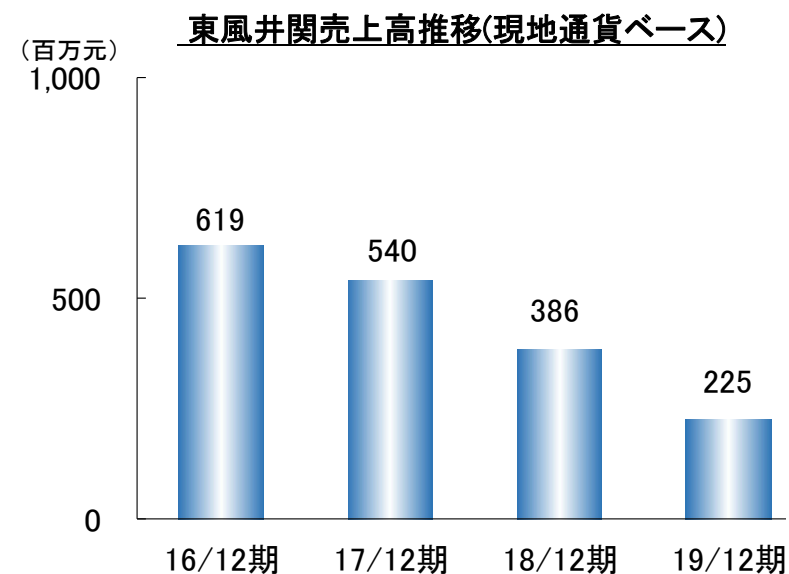
2. 中央政府補助金

(単位:億元)

2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
238	238	237	186	186	180	180 (見込み)

3. 東風井関の状況

➤ 中国国内販売は、田植機が大幅減



■東風井関農業機械有限公司への出資比率

旧) 東風汽車グループ : 井関農機 = 50% : 50%

↓ 東風汽車グループが追加出資

新) 東風汽車グループ : 井関農機 = 75% : 25%

■背景

中国国内における一層の事業発展・事業運営の現地化を図るため

■今後の方向性

- ・当社海外戦略における中国事業の重要性は不変
- ・現地の生産品質は向上してきており、当社は高機能・先端機種等の技術供与など技術面でのサポートを中心に展開
- ・東風汽車グループとの信頼関係のもと、中国事業発展に取り組む

■中国国内 当社グループの主な拠点・操業状況

・湖北省 井関農機 武漢駐在事務所〔武漢市〕

東風井関 武漢総部(本社事務所)〔武漢市〕

// 襄陽工場〔襄陽市〕

⇒ 2月21日(金)以降再開予定。状況を見ながら対応を検討

・その他 東風井関 常州工場〔江蘇省常州市〕

⇒ 2月12日(水)より再開。13日(木)より生産開始も、稼働率は低い
今後、サプライチェーンの影響を注視

海外市場の動向(その他)

ISEKI

韓国

19/12期:コンバインを中心に大きく伸長
20/12期:引続き現地代理店をバックアップし受注拡大を図る

1. 市場の動向

<韓国>

韓国政府主導による転作奨励や、農地の集約化による農機の大型化、効率化が進展
農家数減少傾向により、大型高性能機ニーズの高まり

▶ コンバイン実売台数(19/1-12月)

市場 : 前期比 109%

東洋物産 : 前期比 125%

※韓国業界新聞より当社推定

2. 当社の売上状況

・韓国大手の農機メーカー「東洋物産グループ」の販路で、当社ブランドのフラッグシップ機 トラクタ「TJシリーズ」、コンバイン「HJシリーズ」を投入



トラクタ
TJシリーズ



コンバイン
HJシリーズ



乗用8条田植機
直進アシスト仕様

3. 2020年12月期 業績予想



2020年12月期 連結業績予想

(単位:億円)

	18/12期		19/12期		※ 20/12期		前期比 増減
	実績	比率	実績	比率	予想	比率	
売上高	1,560	100.0	1,499	100.0	1,560	100.0	+ 61
(国内)	1,228	78.7	1,177	78.5	1,203	77.1	+ 26
(海外)	332	21.3	322	21.5	357	22.9	+ 35
営業利益	32	2.0	27	1.8	36	2.3	+ 9
経常利益	26	1.7	11	0.7	28	1.8	+ 17
親会社株主に帰属する 当期純利益	11	0.7	7	0.5	17	1.1	+ 10
為替レート	米ドル	110.2	109.3		105.0		△4.3
	ユーロ	130.9	121.6		118.0		△3.6
為替感応度 (百万円、営業利益ベース)	米ドル				4		
	ユーロ				10		

※予想:2020年2月14日公表予想

国内売上高予想

国内
売上高

農機製品は95周年キャンペーンや新商品投入等により前年並み確保、
作業機・部品・修理収入の拡大および施設工事の増収を見込む

(単位:億円)

		18/12期 実績	19/12期 実績	20/12期 予想	前期比 増減	
農機 関連	農機 製品	整地機	274	254	256	+ 2
		栽培機	92	90	95	+ 5
		収穫調製機	200	186	181	△ 5
		小計	566	530	532	+ 2
	作業機 部品 修理収入	作業機	202	201	205	+ 4
		部品	148	150	151	+ 1
		修理収入	56	57	58	+ 1
	小計	406	408	414	+ 6	
	計	972	938	946	+ 8	
	施設工事	57	46	60	+ 14	
その他農業関連	199	193	197	+ 4		
合計	1,228	1,177	1,203	+ 26		

海外売上高予想

ISEKI

海外
売上高

北米は引続き堅調、アセアンの回復等による増収を見込む

(単位:億円)

	18/12期 実績	19/12期 実績	20/12期 予想	前期比 増減
北米	108	127	136	+ 9
欧州	109	102	102	± 0
中国	10	1	1	± 0
アセアン	39	17	38	+ 21
その他	18	35	38	+ 3
製品計	284	282	315	+ 33
部品その他	48	40	42	+ 2
連結売上高合計	332	322	357	+ 35

連結営業利益・配当予想

業績
予想

販管費の増加はあるものの、増収による粗利益増加に加え、国内販売会社の収益体質の強化や海外向け商品の収益改善等で吸収

1. 営業利益

	18/12期 実績	19/12期 実績	20/12期 ※予想	前期比 増減
売上高	1,560	1,499	1,560	+ 61
売上総利益	460	445	467	+ 22
粗利率	29.5%	29.7%	29.9%	+0.2%
販管費	428	418	431	+ 13
人件費	254	247	253	+ 6
その他経費	174	171	178	+ 7
営業利益	32	27	36	+ 9

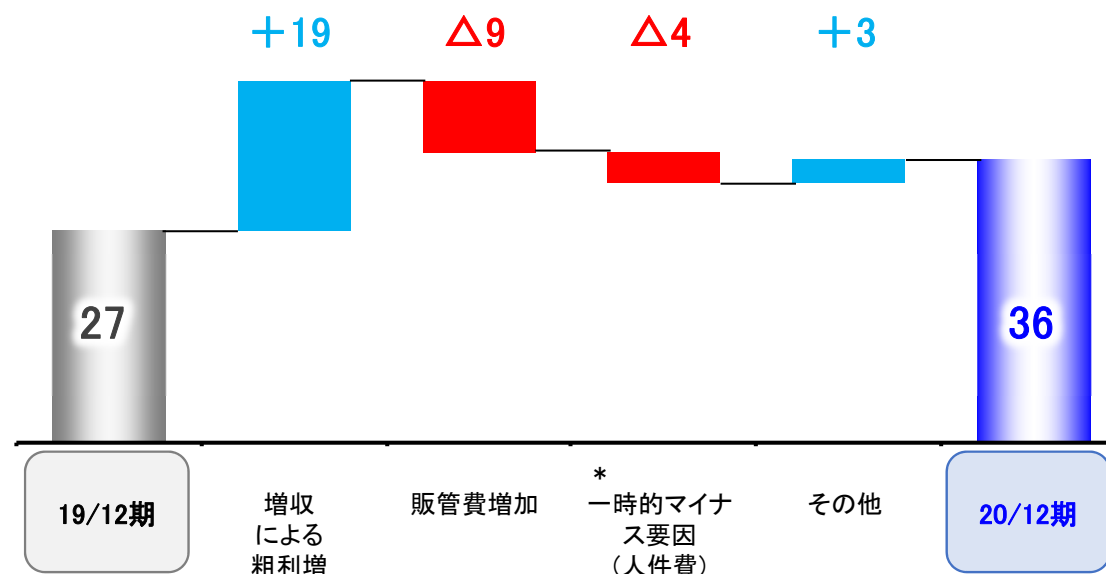
2. 配当予想

(単位:円)

	18/12期 実績	19/12期 予定	20/12期 ※予想
期末配当	30	30	30

※予想:2020年2月14日公表予想

【営業利益増減内訳(前期比)】

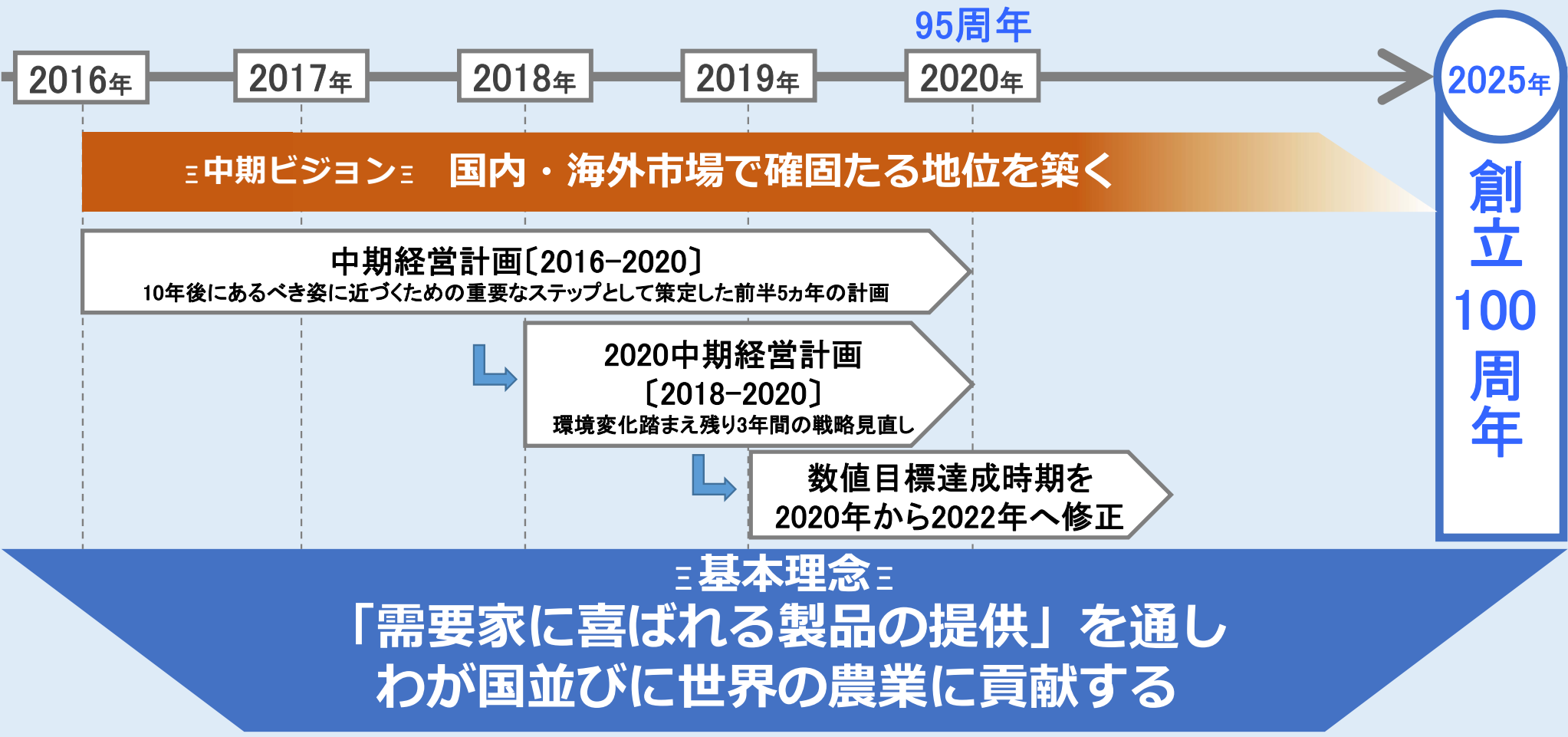


* 一時的マイナス要因 : 販売会社合併に伴う退職給付原則法適用の一時的負担

4. 中期経営計画の 進捗について



中期経営計画の位置付け



≡ 5つの基本戦略 ≡

- 1 激変する国内農業への対応強化

- 2 海外事業の拡大

- 3 開発・生産最適化による収益力強化

- 4 成長に向けた積極的な設備投資

- 5 人材・ガバナンス強化による
企業価値向上

≡ 数値目標 ≡

事業領域拡大	連結売上高	1,900億円
	(グローバル 海外売上高比率※1	40%)
収益性改善	連結営業利益	90億円
	ROE ※2	8.0%以上
株主還元	1株あたり 配当額	50円

※1：グローバル海外売上高比率：持分法適用会社を含む海外売上高比率

※2：ROE(自己資本利益率 Return On Equity)
当期純利益÷自己資本×100で算出

想定からの変化

国内

- ▶ 未来投資戦略、農政によるスマート農業推進加速
- ▶ 消費税増税による駆け込みと反動
- ▶ 天候不順、長雨等による作況悪化、台風など自然災害による被害

海外

- ▶ **アセアン・中国が成長の踊り場継続**
- ▶ アセアン
 - ・タイ:マーケット軟調、販売競争激化
- ▶ 中国:補助金政策変化、穀物価格下落等により農機市場低迷、現地製の台頭

1. 激変する国内農業への対応強化

①販売・サービス体制広域化<ブロック戦略>

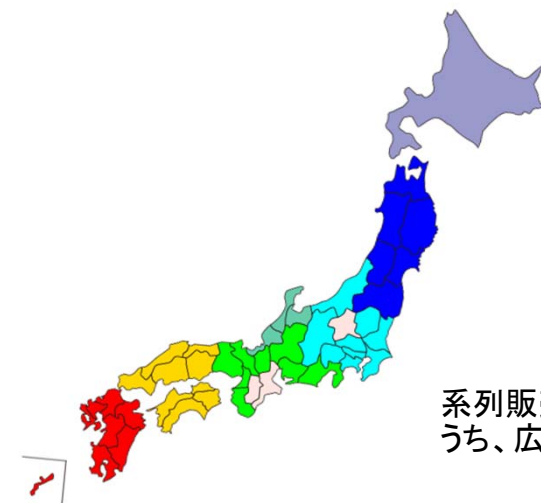
- 大型整備拠点を核に営業所の整備実施
広域販売会社再編 10社→7社体制に

②収支構造改革

- 作業機、部品・修理収入等が増加
販売会社の利益率改善

③商品開発の強化

- オールジャパンシリーズ(大型先端)をはじめとする商品力強化



系列販売会社12社
うち、広域販売会社7社



大型機械



野菜作機械

2. 海外事業の拡大

① 有力な戦略パートナーとの提携を拡大

- イギリス 新規代理店 に出資
インド TAFE社 と技術・業務提携

② 市場にマッチした商品開発・投入

- 北米 サブコンパクトトラクタ モデルチェンジ
欧州 Stage V (排ガス規制) 対応商品
中国 先端技術搭載田植機 販売
アセアン タイ、ミャンマー 向け新商品

③ 部品、アフターサービス事業の充実・拡大

- ISEKIタイランドによる部品・サービス、サポート体制を強化

欧州：乗用芝刈機



北米：
サブコンパクトトラクタ



アセアン：トラクタ



中国：
先端技術搭載田植機

3. 開発・生産最適化による収益力強化

① 海外商品の収益改善

- 北米向けコンパクトトラクタによる改善効果
⇒ 海外商品の収益改善継続推進

② 排ガス規制エンジン内製化

- エンジン生産ライン更新(設備投資実施)
⇒ コスト低減、競争力強化

③ インドネシア事業の収益改善

- 着実に改善、黒字が定着
⇒ 海外展開の加速とともに更なる成長へ



エンジン生産ライン更新
(生産ラインの自動化)



欧州向けStage V エンジンより
生産開始

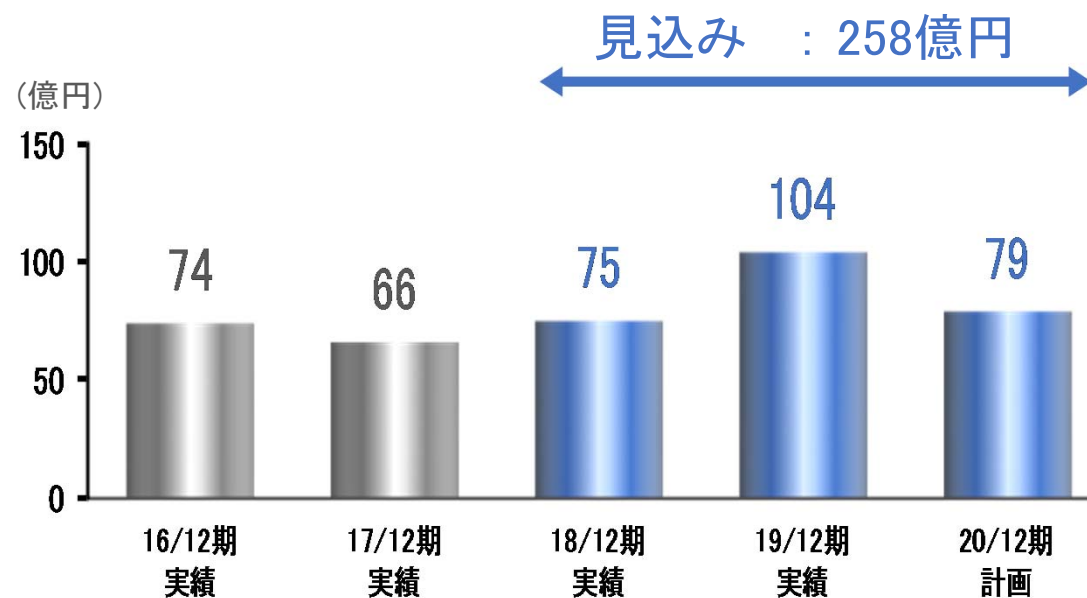
* 欧州Stage V: 欧州ディーゼルエンジン第5次排出ガス規制



PT. 井関インドネシア: 海外向けトラクタを生産



4. 成長に向けた積極的な設備投資



※実績は有形固定資産受入れベース

国内外の成長に向けた投資は
継続実施

主な投資内訳(3カ年)

- 販売会社大型営業拠点整備 50億円
- 生産設備 125億円
(エンジンライン自動化、新機種、生産性向上等)
- 情報化投資 19億円

5. 人材・ガバナンス強化による企業価値向上

① 人材育成、働きやすい職場づくり

- 開発、生産、販売・サービス人材育成
(社内研修受講者数: 1,625名/2018年)
- 働きやすい職場づくり推進(育児休業復職率100%)
- 業務効率化プロジェクトを設置
IT化含めた働き方改革、生産性向上へ

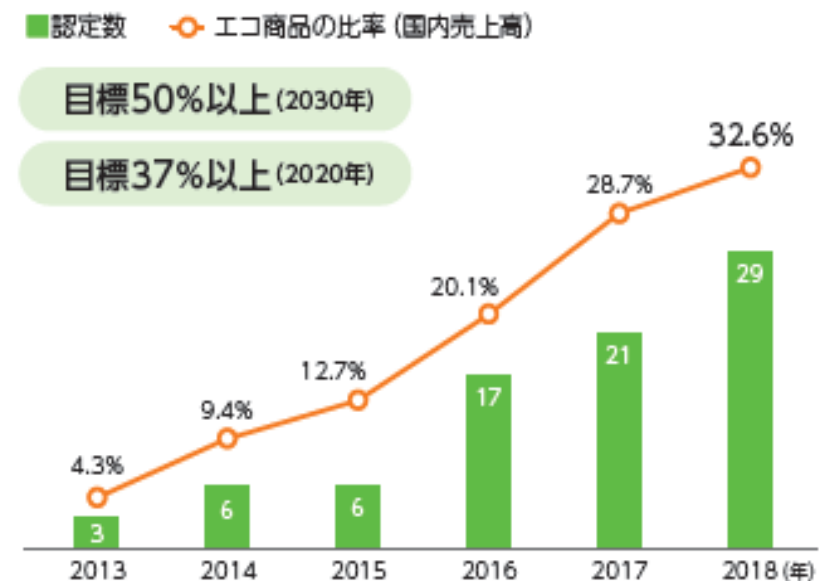
② コーポレートガバナンス

- 第三者機関による取締役会の実効性評価を実施
- 指名諮問委員会の設置

③ CSRへの取り組み強化

- 環境適合性の高い商品(エコ商品)の推進

エコ商品の認定数と比率(国内売上高比)



* エコ商品: 当社独自の評価基準をクリアした環境適合性の高い商品(社内認定)

「変革」

『経営の見える化』

『収益にこだわる』

— 業務効率化 —

中期ビジョン

≡ 中期ビジョン ≡

2025年 創立100周年

国内・海外市場で確固たる地位を築く

≡ 新執行体制 ≡

取締役 常務執行役員
開発製造本部長

小田切 元

取締役 執行役員
海外営業本部長

谷 一哉

3月27日定時株主総会・取締役会を経て就任予定

100周年に向け

新中期計画

[2021-2025]

新執行体制で策定

将来の見通しに関する記述についての注意

ISEKI

- ・本資料は、情報提供を目的として作成しており、本資料による何らかの行動を勧誘するものではありません。
- ・本資料は、現時点で入手可能な情報に基づき、当社が作成したものでありますが、潜在的リスクや不確実性が含まれており、経済情勢や市場動向の変化等により実際の結果と必ずしも一致するものではありません。
- ・ご利用に際しては、ご自身の判断でお願い致します。

本資料に掲載している業績予想や目標数値に依存して投資判断を下すことによって生じ得るいかなる損失に関しても、当社は責任を負いません。



安心を、未来へつなぐ食料自給率1%アップ運動
FOOD ACTION NIPPON

井関グループは FOOD ACTION NIPPON の推進パートナーです。



未来の
ために、
いま選ぼう。

井関グループは、
環境省による地球温暖化対策に資するあらゆる「賢い選択」を
促す国民運動である【COOL CHOICE】の取組みに賛同しています。
「賢い選択」の提案として「エコ商品」など
環境に配慮した商品の開発普及を推進しています。